

1	審議会名	第5回真田地域協議会
2	日時	令和4年8月23日(火) 午後7時00分から午後8時00分まで
3	会場	真田地域自治センター3階 講堂
4	出席者	荒木克子 委員、木島徳行 委員、重倉政三 委員、清水由香 委員、高寺由美子 委員、滝沢博文 委員、田畑和秀 委員、堀内和子 委員、堀内正寿 委員、堀内靖子 委員、松本規男 委員、丸山美奈子 委員、皆川克彦 委員、宮島幸男 委員、柳沢泉 委員、柳沢芳明 委員
5	市側出席者	田中地域自治センター長、羽毛田地域自治センター次長兼地域振興課長、半田市民サービス課長、小林産業観光課長、皆瀬建設課長、松木教育事務所長、山浦真田消防署長 真田産業観光課地域おこし協力隊 仲野孝一 隊員 宮島課長補佐兼地域政策担当係長、櫻井主査、坂井主事、望月主査
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和4年9月1日

協議事項等

会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 センター長あいさつ
- 4 報告・確認事項
 - (1) 真田地域の地域おこし協力隊の活動について(真田産業観光課)
 - ・担当課長から隊員紹介
 - ・仲野孝一さんから地域おこし協力隊の活動について報告

【質問】

(委員) 信州上田ファームの研修者として具体的に令和4年度1名、ベリーガーデン6名、令和6年に3名ということだが上小地域の方なのか。

(仲野隊員) 令和4年度1名の方は本原地区だが、そのほかの方は県外だ。

(委員) そういった場合に住居だとか、そういったものの紹介などはしているのか。

(仲野隊員) 本来であれば手を出したいところだがなかなか難しいので、関係する方々と相談しながらフォローしているところだ。やはり皆さん、一戸建ての住まいを要望されるところだが、購入となると資金的に厳しいので、今たくさんある空家から、賃貸でいいという貸主がいてくれたらやはりありがたいと思う。

(センター長) バイオマス農業に興味を持ったのだが、ジャイアントミスカンサスが背丈3mにもなるということだが、これをもし収穫しなかったらさらに大きくなっていくものなのか。

(仲野隊員) これは通常のススキと同様のサイクルで、1年で成長し、枯れていく。

(センター長) ペレットに加工ということだが、木材でいえば近くの森林組合でペレットに加工できるが、このススキのペレット化は近くにできる業者などはあるのか。

(仲野隊員) 残念ながら私が視察させていただいた栃木県さくら市の一か所だけだと把握している。研究としては北海道大学の先生が活用に向けて進めているが、私の視察先でも木質を少し混ぜ込まなければペレット化しない、固まらないということが今後の課題ということだ。

(センター長) ぜひ事業化できたらいいなと期待をしている。

(仲野隊員) 補足だが、木材のほうが固く、大きいのでペレットとして向いていると思われがちだが、北

海道大学での研究では、燃焼部の炭素分ではジャイアントミスキャンサスのほうが優位にあるという研究報告がある。実現したら夢のようなエネルギーになるのではないかと期待している。

(委員) 新規就農者のベリーガーデンの方がいらっしゃると思うが、実際に就農して生活はできているのか。ブルーベリーは時期にしか収穫できないものなのでそこで収入を得られるものなのか。

(仲野隊員) 説明が不足して申し訳ない。ブルーベリー園についてはこれまでも、果樹農家さんが、本業があつて、その中で荒廃地を作らないという目的があり、そこにブルーベリーを植えてこの20年間維持してきた。先ほど申し上げた信州上田ファームから6名のサポートを得られているというの、その6名も本業としてうえだファームに研修生として在籍している4名と、りんごの果樹農家さんがサポートに入ってもらっているということだ。

(委員) 半農半Xなかで、市民農園でやられているということだが真田地域のどこでやっているのか。

(仲野隊員) 場所として、つくしの市民農園で行っている。

(委員) 続けて農福連携事業の中で、大麦、ライ麦畑を考えているとのことだが、真田地域で実際にそれらを考えている場所があるのか。

(仲野隊員) 昨年末から私の試験栽培の畑などで試したが、小麦同様ライ麦、大麦は環境を選ばない植物なので、十分育つ可能性がある。現在はペンディング状態だが社会福祉法人のほうでは200~300坪の規模で考えているそうだ。

(委員) 私もブルーベリー部会などに参加してお話は聞いていたのだが、このような活動をどのように地域に発信していくのかということをお聞きしたい。自分がやってみて、労務量が多いが収入が厳しい農業だという感じ方があった。私なりに人と人をつなぐところが仕事なのかなと思うところがあるが、農地を借りたい人と貸したい人をつなぐとか、半農半Xやってみたいけどそうしたらわからないという人など、情報発信を今後どのようにやっていくのかをお聞きしたい。

(仲野隊員) 皆さんにどのように私の考えを発信していくかは非常に大切だと捉えている。先ほど説明した半農半Xだとか農業体験のホームページを開設したり、またセンターだよりに掲載したり、広報うえだでも掲載している。一方それだけで足りない部分を、実際の活動として考えているが、例えば本原地区には若い家族世代が多く住んでいるが、そういう家族に農業をやってもらい、農地の利用を知ってってもらいたいという想いはあるが、現在利用していただいている家族は真田地域の方ではない。いかにこのような活動を知っていただくかが今後の大きな活動の焦点になる。

(委員) 少し視点が違うが、岩清水にクライנגルテンがあると思うが、そこにも市がお金を出して整備していると思うが、ああいった派手な取り組みと、仲野さんがやられている地道な取り組みはどういう成果というか方向性の取組と思うか。

(仲野隊員) 私個人としては、体験をしっかり学ぶことが大切だと考えている。ハードとして綺麗な建物と害獣にやられない農地を用意しました、といったものを利用者が使ったときに、農業を進めるうえでの壁に当たった時の知識などがカギになる。そういったことから私個人としては、ハードよりソフトを充実していく事が重要だと考えている。来年は米作り体験もやっていきたいと考えている。去年の経験で、真田中学校に向けた食育学習をやっている中で中学校全体にアンケートをとったのだが、家で食べているお米について、家で作っている、また親戚からもらっているなど、7割ほどの家庭が米を購入していないということが分かった。これは真田地域の貴重な文化ではないのかなと思う。米を作りたいがどうやったらいいのか、とか機械がないがどうしたらいいのかという家庭に対して、米を作ることを多くの人に体験し、継承していくような事業を行っていきたくて考えている。

(2) 次回地域協議会の開催日程について

- ・計画どおり9月27日(火)19時から、内容として上田市上下水道局、ならびに上田市交通政策課から地域協議会において説明と意見を求める事項について。

(3) その他

5 閉会